

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料 ～マラウィ ムワンダマ地域 視察訪問記～

ご担当者の皆様、日頃は TFT プログラム実施のため多大なるご支援を頂戴しまして本当にありがとうございます。本資料は、かわら版だけでは伝えきれない支援先の情報を皆様にご覧いただくための補足資料です。貴組織内でのコミュニケーションや PR 等のご参考にしていただければ幸いです。今後とも引き続きのご支援、何卒よろしくお願い申し上げます。

(TFT 事務局一同)

視察の目的

皆様よりお預かりした寄付金が適正に使われているかどうか、私共スタッフの目でしっかりと確認する事が目的です。現在、皆様からのご支援による学校給食プログラム実施先はアフリカのウガンダ、ルワンダ、マラウィの 3 か国です。今回はマラウィの小学校を訪問してまいりました。

今回の訪問スケジュール

日程：2009 年 1 月 22 日（木）

9:00 ホテル出発

10:00 ゾンバのプログラムオフィス到着

11:00 学校訪問 デュラサンジ小学校

- 校長先生との対談

- 給食室視察、準備見学

- 食事見学

- クラス見学

15:00 視察終了

マラウィにおける給食支援

- 2006 年に給食プログラムを開始した際の生徒数は約 450 名だったが、現在は 650～700 名に増加。生徒数は季節によって変化する。食べ物が不足しがちで給食の価値が高まる雨季は生徒数が増える
- 村内の就学率は現在 70% 近くまで達している
- 学力向上：昨年、Secondary School（日本で言う高等学校の位置づけ）への進学テストに合格した生徒は 42 名であった。最終学年の数が約 50 人であることを考慮すると、これは非常に優秀な成績
- 校長先生曰く「給食プログラムが始まってから、生徒たちが勉強にすごく集中するよ

うになった。以前は学校に来て、下を向いて疲れた表情をしている子ども、集中力が続かず外に出て遊びに行ってしまう子どもが多かった。今は、授業中に集中している子どもがほとんど。勉強の楽しさを体験して、始業前の朝の6時から学校に来て予習をしている子どももいる」とのこと。

- 自立にむけての工夫：親や村人の参画を促すために、様々な工夫を凝らしている。
 - 1 つめは労働力の提供。給食の準備である水汲み、火おこし、調理、そして食事後の皿洗いなど。両親が交代制で受け持つことになっている。
 - 2 つめは、資材の提供。村が一部を請け負い、全てを外部支援で提供しないようにしている。例えば、給食室は屋根のアルミ建材のみが外部支援、それ以外のレンガや土などの資材は村が調達。村の自治体にも明確に役割を義務付けることで、学校、村、そして外部の支援組織が三位一体となった協力体制を構築できるようにし、そうすることで、外部支援が終了した後も、仕組みが継続実施されることを目指している

事務局長の所感

学校給食がない場合、子どもたちの大半は一日の食事のままならない状況。朝には紅茶に砂糖を入れたものを飲み、昼食はとらずに夜にフルーツ（バナナやマンゴなど）を食べる程度。

食べ物がないということもあるが、もっと深刻なのは親の無知。伝統的なお粥は貧乏人が食べる物で、紅茶の方がより上品な物と信じている親も中にはいる。10歳未満の子どもには、食べ方のしつけや教育が必要。そうでないと紅茶やジュースなどで空腹を満たしてしまう。

学校では村人への農業指導や栄養指導も行っている。学校給食を通じて学校に来てもらい、親も巻き込んだ栄養教育を行うことが非常に重要であると感じた。

TABLE FOR TWO かわら版 補足資料

～日本での実施状況～

参加組織

- 企業：68
- 大学：14
- 官公庁、公的機関：15
- 病院：4
- その他：6

⇒計 107 の組織で実施中（2008年2月3日現在）

これまでに送った寄付金

- 第1回送金 2008年4月
130,984食分（約600人の子供の1年分の学校給食）
※2007年2月のテスト実施分から2008年3月分まで
- 第2回送金 2008年7月
63,034食分（約290人の子供の1年分の学校給食）
※2008年4月分から2008年6月分まで
- 第3回送金 2008年10月
146,554食分（約670人の子供の1年分の学校給食）
※2008年7月分から2008年9月分まで
- 第4回送金 2009年1月
250,484食分（約1,140人の子供の1年分の学校給食）
※2008年10月分から2008年12月分まで

⇒合計 591,057食分（約2,700人の子供の1年分の学校給食）